

| 質問数 | 質問 | 回答 |
|-----|--|--|
| 1 | 保育士は子どもの発達理解はかなりできているけど 視覚や聴覚の発達の知識は乏しい | 保育の教科書や雑誌にもまだまだ、具体的な情報が足りていないですね。学会を通じて、知らせていきたいと考えています。 |
| 2 | つつい保育者はこういう探索を邪魔しようとしがち | 大人は「可能性の束」の少ししか知覚できていない、という認識が必要なのかなと思います。触り方、運動の仕方、見立てにしても、つい枠組みを当てはめてしましますよね。 |
| 3 | 保育の中で環境を構成する時 一般に保育者が望む方向に誘導しようとして環境を準備してしまう | 子どもと環境の出会いはプロデュースしても、そこから何を得るかは、絞り込んではいけないように思います。 |
| 4 | 大人が思ってる以上に乳児は乳児用の玩具ではなく、複雑な玩具(グロッケン) を使えるようになるんですね | 木下先生、コメントを有難うございます。子どもは、大人の考える以上に可能性に開かれているということですね。けがや事故（これは負のアフォーダンスということになります）の一手手前で見守る姿勢が養育者には求められるのかもしれない。 |
| 5 | 保育者の子どもへの枠組みをいかに取り除くか、大きな課題ですね。 | おっしゃる通りです。それを現場に入れていくことが、なかなか難しいですが、理解してくれる先生方がおられるの感じます。 |
| 6 | 環境を構成するのに先生の研究は実践に活用できると思う | 環境構成に現実的・具体的に活用できる知見があれば、積極的に実践の場へ持って行きたいと考えています。 |
| 7 | アフォーダンスの促進行為は結果的にいいのでしょうか？ | ご質問を有難うございます。アフォーダンスには正の側面と負の側面、両面があります。負のアフォーダンスは事故やケガ（例えばハサミには切るという可能性があるわけですが、それはケガをさせる可能性も含まれます）を引き起こします。その点でいえば避けるべき、ということになるかと思えます。ただアフォーダンスが「良いのか悪いのか」というのは、文脈に応じて変化するということになるでしょう。 |
| 8 | モノの側にアフォーダンスがあるとすれば、子どもが発見するアフォーダンスの数は、モノが潜在的に持つアフォーダンスの数を超える場合もあるのでしょうか？それとも、アフォーダンスは量的に定義できない概念ですか？ | アフォーダンスは、統制した環境下において、操作やかかわり方を限定するという条件があれば（ある目的に沿った形での）定量化は可能だと思いますが（例えばスライドでお示した「濃度」を制限するようなイメージ）、そうすると実験心理学的な刺激と同義になってしまう可能性がありますので、それは根本的にアフォーダンスとは相容れない状況になってしまうと思います。やはりアフォーダンスはおおよそ無限、と考えておくことがよいと私自身は思っております。ただ「傾向性」として選択されやすいアフォーダンスを埋め込む、ということは可能かと思えます。 |
| 9 | このあたりの聴覚の発達を理解せずに保育を行うと 指示が通らない と判断され 発達障害とみられることが多々あるように思う | その誤認が多々あるとのこと、言語聴覚士や聾学校から指摘があります。「感覚統合とその実践」には、中枢性聴覚情報処理の障害から生じる問題行動があげられています。それによると、ADHDやASDに表面上非常に似た行動が頻出するようです。 |
| 10 | 保育士は促進行為をしがちですが、知ることなく知ってしまったとき自ら探索した時と違いはありますか？ | 主体的に知った時と、保育者の促進行為から受動的に知った時の違いでしょうか。探索は、環境内の多様な情報の中から試行錯誤して何かを発見する行為ですが、促進行為を通じて限定的な情報を手渡された場合、試行錯誤の幅は小さくなります。経験を限定的にするという側面があると言えます。ただ一方で、共同注意を通じ「社会的学習」ができるような促進行為であれば、それが対象物への学習を推進することも確かです。促進行為の内実によって大きく異なると思います。 |
| 11 | 運動スキルの発達（身体変化）がものとの関わりの多様性をリッチするとともに、社会的関わりが収束を促すと考えられる。モノ自身が人によって設計されているのだが、設計者が意図していない使い方が発見され流布することもある。なので、大人でも経験のバイアスが関わるが、同じ過程が再現されていると考えられる。 | 浅田先生、貴重なコメントをいただき有難うございます。ご指摘の通り、実は大人も自ら作り上げたものでありながら、潜在する可能性のすべてを把握できているわけではない、むしろ期せずして新たなアフォーダンスを埋め込んでいるということもあると思います。社会文化的なフレームへの参入が、身体的な発達を基盤にしているという点が、子どもと大人のバイアスの違いということなのかもしれません。その意味でアフォーダンスは物理的でもあり、社会的でもあり、といったことになると思っております。取り留めもない回答になってしまい申し訳ございません。誠に有難うございました。丸山 |
| 12 | 嶋田先生へ2歳前後の幼児の発達支援を静かな個室で行うと、多くの子どもが聞き取りが上手に出来ます。作為的に人が多数いる場所に連れて行って、子どもに話しかけているのですが、これが聞き取りの支援に有効かと自問しています。ご意見をお願いいたします。 | まず一対一、次に3人くらいの会話で、多少の声の重なりを経験することから、ではないかと思えます。多人数の部屋はハードルが高いと思われるます。 |
| 13 | 捨て貼り工法は吸音率が下がるので 工事するなら張り替えた方がよい | 工事でできれば効果は高いのですが、RTで言及したものは、工事ではなく簡易な貼り付け天井材です。シミュレーション結果を見ると効果は私が紹介した「手造り」と同等のようです。そもそも建築時点で吸音材が入っていれば問題ないのですが・・・子ども園化や改修を検討中の園には、ぜひお伝えいただきたいです。 |

| | | |
|----|--|--|
| 14 | <p>保育現場における物的な音環境について教えていただきありがとうございます。人的な音環境について先生のお考えを教えてください。</p> <p>保育現場での保育者の声が一般的な音量よりも大きく、高く感じる人が多いように思います。ピアノやCDにあわせた歌唱指導にも子どもの発達に応じているのかどうか、疑問に思うことが多いです。（ピアノなどを使用せず、わらべうたを実践する園も存在するので）聴覚の発達過程を軸に音楽教育を考えた時、ピアノによる弾き歌いを開始する適切な年齢、発達段階について教えてください。</p> | <p>年齢をいうことはなかなか難しいのですが、弾き歌いは本来、幼児期には適さないと思います。年長なら比較的、大丈夫かな、というところですか。ピアノの下にマットを敷いたり、吸音のある部屋で弾くなど、工夫が必要です。CDに関しては、大人が物足りない音量、ということをご基本にお願いしたいと思います。</p> |
| 15 | <p>ぶらつきの減少...興味深いです。指示がわからず、自分が何をやる時間なのかわからなかったのかな。読み聞かせの声も聞こえていなかったのかな。小学生でもこういう子が沢山いると思います。</p> | <p>指示の面もありますが、指示がない場面でもなんとなく落ち着かない、自分の思考(?)に集中できない、といったことがあるような印象を持っています。読み聞かせについては、よく聴こえていない子が居ると思います。小学校では、比較的音環境が整えられていますが、fm波で先生の声を聞く、というような対応が、海外では取られているそうです。</p> |
| 16 | <p>視覚発達への理解が少ないため 月齢 年齢に応じた絵本の選定ができていないことが多い また保育室を設計する際 環境を構成する際も 大人の趣向によってつくられることが多く適切な保育室が構成されていないことが多い</p> | <p>視覚(に限りませんが)発達への理解と、個人差を見る目の両方が必要ですね。何が適切か、を研究の視点から言うことはとても難しいので、少なくとも何が不適切かを明示していければと考えています。(知識不足のせいかもしれませんが、視覚の方が聴覚・音環境より難しく感じます・・・) (嶋田)</p> |
| 17 | <p>「コントラストが高い」とよく見える、というのはわかりますが、小学校低学年くらいの子で、コントラストがくつきりすぎる文字は見えにくいという場合があります。学習障害など。</p> | <p>貴重なご指摘ありがとうございます。感度の高さには個人差があり、視覚でも聴覚でも敏感な子にとって刺激が適度ではなく、かえって見えにくいということがありえますね。(痛い・苦痛ということにもなりません。) 視覚発達の実証的な知見は豊富ではあるのですが、個人差や多様な環境の影響も含めて考えるべき実践的な課題に、充分お答えできるところに至っていません。議論を深めていきたいと考えています。(嶋田)</p> |
| 18 | <p>赤ちゃんが原色の方が識別しやすいことは知っていましたが、視力が悪いのではないということに驚きました。乳児クラスでは3原色の色を意識して遊具などを作っているのですが、だいたいいつごろから薄い色を識別できるようになるのでしょうか。きっと個人差はあるのでしょうか...</p> | <p>赤・緑の弁別は1ヶ月からでき、黄青の弁別3-4ヶ月からだといわれています。色がどのくらいに薄いによりますが、基本的に薄い色の区別は難しいです。赤ちゃんの個人差の研究がなく、よくわかりませんが、成人の色知覚の個人差が大きいので、赤ちゃんの個人差も大きいのではないかと思います</p> |
| 19 | <p>保育園の給食で和食にこだわって偏ったメニューを提供していることがある また、献立を立てる時に明らかに食べ合わせが悪いものを準備することがある。このあたりに介入して偏りのない献立を指導していかなくてはならないと思う 自治体が率先して上述のような献立を提供していることがある</p> | |
| 20 | <p>働く保護者が増えてきていて 家庭での食事が軽んじられているように思う レトルトやインスタント職位Hんん</p> | |
| 21 | <p>インスタント食品で終わらせてることが多いように思う また家族で食卓を囲むことも 食事に対しての好みに大きくかわっているように思う</p> | <p>そうですね。インスタント食品を上手に活用することは現在の社会でのQOL向上につながるのでは悪いことではないと思います。</p> |
| 22 | <p>視覚・聴覚・味覚の発達の中で、弁別できることが重要と感じましたが、弁別できる能力自体は、どのような発達をするのでしょうか？ 違いがあることに気づくためには、自分自身でトライアンドエラーを繰り返す中で、その力をつけていくようにも思うのですが、「違いに気づくこと」や「違いに興味を持つこと」などの発達は、どういった関わりや相互作用の中で伸びていくのでしょうか？</p> | <p>トライアンドエラーの経験は、発達に影響を与えると考えられるのですが、社会的な「関わり」や相互行為によって弁別能力が伸びるのかどうかは分かりません。対象物に興味を持つ・注意を向けさせるためには、周りの人が共同注意したり、楽しそうに関わる姿を見せたりすることは効果的かもしれません。他方、知覚的な探索に没頭するようなケースでは、集中できる環境と多様なアフォーダンスがトライアンドエラーを支え、発達を支えるのではないかと考えます。</p> |
| 23 | <p>food neophobiaについては、6-15回摂取により改善できるなど摂取経験=学習による効果があることがわかっていますが、例えば匂いだけを何度か経験させるだけで、親近性が高まり、food neophobiaが減退するといったことはわかっているでしょうか。あるいは考えられるでしょうか。</p> | <p>食品の匂いとして経験することが大切かと思います。</p> |
| 24 | <p>アフォーダンス、といった時、昔は「自然」のなかで遊んでいたのが、それと現在の目的が明確な遊具で遊ぶこととの違いはあるのではないのでしょうか。</p> | <p>ご質問を有難うございます。自然と遊具では潜在するアフォーダンスの多様さには差があるといえますが、一方で人工物(遊具)のアフォーダンスが必ずしも貧弱であるとは言えないと思います。優れたデザインによる遊具は子どもの探索を誘発しますし、「名づけられない」「明示的な使い方がわからない、しかし多様な行為が引き出されている」という遊具は、自然とおなじというわけではないのですが、優れた環境ではあると思います。</p> |
| 25 | <p>楊先生に質問です。脳性麻痺等視覚障害を合併しやすい乳児に対し、早期からコントラスト等認識しやすい物を見せて学習させることで、視覚認識能力を向上させることが可能でしょうか？また、斜視等運動機能面での改善も見込めるでしょうか？</p> | <p>すみません。このへんの基礎研究が少なく、よくわかりませんが、見えやすいものをお見せすることは、視覚認識能力を向上させることは可能だと思います。</p> |
| 26 | <p>2年前に学生実験で赤ちゃんはパステルカラーが好きではないのかということを検証するためにPCCS表色系を使って原色との比較を行いました。その結果、例えば黄色など彩度が低くても色みによっては原色と変わらないくらいの注視時間でした。色によって彩度や明度の影響は違うのかも知れませんが、私もこのあたりは素人なので何かご存知であればご教示ください。</p> | <p>発表のとき説明は抜けているかもしれませんが、同じ色味同士の中で、彩度の高い色をより長くみるということです。異なる色の選好を比較するときは話が複雑になります。Brown & Lindsey, 2013ではモデルを作って色選好を予測しています。色選好は赤緑と黄青の2つチャンネルの活動で説明できるとの結果でした。また原色よりも彩度の高く黄色が作れますので、実際に実験で使われていた色を計算してみないと、どのファクターで選好に影響しているかをよくわかりません。</p> |
| 27 | <p>乳幼児に「弁別しやすい」または「選好される」色・模様を絵本や教材に使うことは大事かもしれませんが、それを保育室の装飾に使うことが良いのかどうかは疑問に感じました(乳幼児にとって心地よいのか・落ち着けるのか)。</p> | <p>実は私も疑問に思うところです。「選好する」ことが「好き」であったり、「常態的に入力すると良い」刺激ではないので、刺激過多になるかもしれません。</p> |

| | | |
|----|---|--|
| 28 | <p>先ほどと質問者です。わかりにくい質問で失礼しました。</p> <p>和田先生の、味覚に関する弁別については、実際に摂取することで、命に関わる場所だと思い、弁別せざるを得ないからできるようになる、というところは、しっかりしたように思います。</p> <p>視覚・聴覚など、「違い」や「変化」に気づくことが、大切だと思うのですが、そういった「弁別する能力」がどのような発達をするのかという点を確認したかったことと、どういった関わりをすることが勧められるのか、もしくは本人の自主性に任せていくのか、というところを聞きたかったです。</p> | <p>命に関わる場所の弁別は他者や環境を信じるしかないかと思えます。食味の好みのところで、経験が多いものの質の違いは分かりやすくなる、という感じかと思えます。</p> |
| 29 | <p>ご回答ありがとうございます。段階を踏める環境、機会をつくっていききたいと思えます。</p> | <p>ありがとうございます。また機会があればご参加いただければ幸いです。</p> |
| 30 | <p>どのような立場で観察すると、知りたいです！</p> | <p>ありがとうございます。企画者の不手際で短時間になってしまいました。山口先生のご質問からのディスカッションでこちらも視野が広がりました。子どもの目で世界を見ながら、科学的な目でその子どもを見る、二重の目をもつ観察者でありたいと私は考えています。(嶋田)</p> |
| 31 | <p>貴重なお話をたくさんありがとうございました！いろんな共同の形がみえてきました！</p> | <p>ありがとうございます！保育実践の先生方に遠慮なくものを言っていたら、協働していければと思います。よろしくお願ひ致します。</p> |
| 32 | <p>嶋田先生 ご回答ありがとうございます。是非、保育現場にもその知見を広めて欲しいと思えます。現在、私は保育者養成に携わっておりますので、私自身でも、音環境について繊細に考えていけるように努めます。今後ともよろしくお願ひいたします。美作大学短期大学部 カルマル良子</p> | <p>ありがとうございます。今後ともご意見いただけると嬉しいです。</p> |
| 33 | <p>丸山先生からは保育者として子供をしっかり観察すること、今の置かれている環境から子供たちが何を感じ、どう発達させるかを読み取ること。嶋田先生からは聴覚における保育室のハードルの高さを改めて実感しました。聴覚の環境を整える視点を気づかさせていただきました。楊先生の視覚のお話は、保育園の環境、絵本選び等で大変参考になりました。和田先生、味覚教育について改めてご講演勉強になりました。ベジキッズの事例をご紹介いただき誠にありがとうございます。引き続きお子様の可能性を引き出すことを模索していきたいと思えます</p> | <p>ご来場ありがとうございます！今後もよろしくお願ひします！！</p> |
| 34 | <p>att: 和田先生、食にはどれくらいの経験を作ることが重要なのでしょうか？年齢に応じた基準はありますか？(山口先生の討論内容)</p> | <p>特別なことをする必要はないと思えますが、いろいろな方法で食品に接することがあるといいのかもしれない。</p> |
| 35 | <p>保育士です。嫌いなものは無理に食べさせなくてイイと私も思えます。でも保育士の中には盛られた量を食べさせることが力のある保育士とされる傾向があります。給食の調理に至っては、規定量は食べさせて欲しいと保育士にいきます。正直しんどいです。</p> | <p>小学校でもそういう話はあるようですね。最近は食べる量を児童自身が調整できる場所も増えてきているようですね。</p> |
| 36 | <p>質問や解答をできる範囲で共有して頂けると嬉しいです。</p> | |
| 37 | <p>ありがとうございます！先生のプレゼン楽しかったです！</p> | |
| 38 | <p>食には好みもあるし、それぞれ必要な量も違うし、極端に味に敏感すぎて偏食が多い子もいるし(食感にも)、なのに全量食べなくてはという根拠のない持論を言う保育士に全量食べさせなくてもいい根拠を示したいのですが。</p> | <p>栄養士の先生としては全量食べさせたい気持ちもわかります。今回は嗜好との関係から、食べられないものを無理に食べさせることが、その食品自体に慣れさせる可能性もあるが、嫌いにさせてしまう傾向もあるということをお話しました。栄養士の観点から全量食べるべきかどうかは、栄養士の先生と検討することであると思えます。</p> |
| 39 | <p>皆さんの質問&回答を見たくて残っていました。先生方も延々残らないといけないうちになってしまうのでは、と心配しておりました。でも、他のHPにUPしていただけるのであれば安心です。楽しみにしています。興味深いラウンドテーブルありがとうございました。(単なるお礼です)</p> | <p>ありがとうございました！また次の機会にもご参加いただければ幸いです。</p> |
| 40 | <p>赤ちゃんは早期から音の弁別力や聴取力があるという研究や本はよく目にしましたが、雑音下でのその聴取力に大きな差があるというのは新しい情報でしたし、大事な視点だと思いました。その辺をもっと広めて頂きたいと思えます。障がいを持っているお子さんですと年齢は高くてもその辺の問題は大きいのでしょうか。環境整備大事ですね。なかなか難しいですが～</p> | <p>必要であれば拝見に行きます！雑音下での聴取について、国内の文献で触れているものは非常に少ないです。触れているのは、志村先生や船場先生・野口先生、熊本の川井先生など、赤ちゃん学会保育の音環境協議会に関わっている方が多いです。身内というか。発達障害のお子さんには、聴覚過敏もあり、にぎやかな環境は厳しい状況となります。</p> |
| 41 | <p>上記「アフォーダンス」の質問はまだこたえていただけるのでしょうか？</p> | |
| 42 | <p>和田先生ありがとうございます。もちろん保育園でも量の加減はできます。しかし、園によりけりです。私は公立なので転勤する園の保育士や厨房の人の考え方に左右されます。人によって変わります。なので根拠がなさすぎな食育なので。慣れさすことで嫌になる経験を私自身が幼稚園の時にしたため、特に強く思えます。</p> | |
| 43 | <p>今回の質問や解答を何らかの方法でシェアして頂けるとの事ですが、どういう方法でシェアして頂けるかは、どのような方法でお知らせ頂けるのでしょうか？</p> | |

| | | |
|----|--|---|
| 44 | <p>視覚についてですが、注意障害があるお子さんは、コントラストがはっきりした柄に注目しやすく、自分の手元への注視や手の操作の持続の妨げになる場合がみられ、療育者はむしろ自分が背景になった方が子どもが遊びに夢中になれたり落ち着くのであれば、無地の洋服を選ぶことも多いです。絵本などに注意を向けさせたい場合はコントラストをはっきりとさせた本を選択したり、状況によって子どもの様子を観察して目的にかなった視覚効果を自身で探していくことが大切ないように思います。</p> | <p>仰る通りです、状況によって、選択する必要があると思います</p> |
| 45 | <p>シエアのご配慮ありがとうございます。よろしく願い致します。</p> | |
| 46 | <p>ご回答ありがとうございます！</p> | |
| 47 | <p>私の園では0歳児からおやつを選択もしています。</p> | |
| 48 | <p>ちなみに、自然のほうが「明示的な使い方」がないのが、いい場合がある、とおもいました。</p> | <p>横からすみません。多様な経験、変化の果てしなさを思うと、良い場合は多いと思っています。単純に「自然が一番」というのではなく、おっしゃるように「明示的でないことの良さ」というように、保育者に理解が広がると良いなと思います。</p> |